

大阪経済記者クラブ会員各位

提言「グレーターミナミの活性化に向けて」

～難波、新今宮、阿倍野・天王寺・上本町エリアと、大阪府南部の泉州・南河内地域を、一体的な発展をめざす都市経済圏「グレーターミナミ」として活性化～

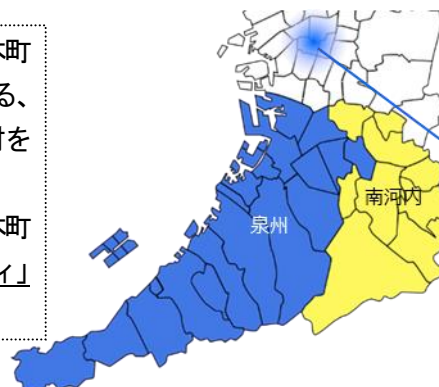
【お問合せ】大阪商工会議所 地域振興部 中野
TEL 06-6944-6323

- 大阪商工会議所 都市活性化委員会（委員長：錢高一善・(株)錢高組取締役会長）は、このほど、大阪都心部と大阪府南部地域を「グレーターミナミ」と呼び、一体的な発展をめざす都市経済圏として活性化をはかる提言をとりまとめた。地元はじめ幅広い企業をメンバーとする「グレーターミナミの活性化研究会」（座長：嘉名光市・大阪市立大学大学院工学研究科教授、都市活性化副委員長）において、昨年10月から検討してきたもの。
- 大阪府南部の泉州・南河内地域は、近年人口減少が続くほか、インバウンドでも関空利用者の通過都市になっている。一方、インバウンドの受け皿として開発投資が進む難波、新今宮、阿倍野・天王寺・上本町エリア（グレーターミナミ・シティ）も、2031年になにわ筋線が開業すれば通過点になりかねない。また国等による中長期のまちづくり整備計画がなく、一体的に発展する地域としてとらえられてこなかった。
- そこで、アジアに太く強くつながる関西国際空港をゲートに、大阪都心部と大阪府南部地域が行政区域を越えて、一体的な発展をめざす都市経済圏「グレーターミナミ」を形成することを提案。グレーターミナミ・シティを日本のインバウンドのハブとして、その活力をグレーターミナミ全体に波及させ、アジアビジネスや新しい農水産業など新産業のマザーエリアとして発展させ、定住人口と交流人口を増やす好循環を創造すべき、としている。
- 具体的には、関空からの至便性を活かし、アジアビジネスやアジアベンチャーの集積をはかるほか、世界遺産指定を待つ百舌鳥・古市古墳群など地元ならではの観光コンテンツを提供する着地型観光に泉州7商工会議所等と連携して取り組むこと、グレーターミナミ・シティでは、観光産業地域としてのまちづくりを推進するため、大阪市が検討中のTID制度の活用や、インバウンドビジネスの集積など、全14方策を提言している。今後、泉州地域の商工会議所等とも意見交換しながら、具体策の取り組みを進めていく。

<グレーターミナミとは>

・難波、新今宮、阿倍野・天王寺・上本町エリアを基点に、大阪府南部に広がる、泉州9市4町と南河内6市2町1村を含む地域。

※難波、新今宮、阿倍野・天王寺・上本町エリアを「グレーターミナミ・シティ」と呼ぶ。



グレーターミナミ・シティ



<提言内容のポイント>

1. 取り組みの方向性

- (1) アジアに太く強くつながる関西国際空港をゲートに、大阪都心部と大阪府南部地域が、行政区域を越えて、一体的な発展をめざす都市経済圏を形成する。
- (2) 難波、新今宮、阿倍野・天王寺・上本町エリア（グレーターミナミ・シティ）を、日本のインバウンドのハブとして、アジアからの集客、日本各地への送客、インバウンドビジネスの集積をはかる。
- (3) その活力をグレーターミナミ全体に波及させ、インバウンドビジネスやアジアビジネス、新しい農水産業など新産業のマザーエリアとして発展させる。
- (4) これら取り組みを進め、定住人口と交流人口を増やす好循環を創造する。

2. 具体方策

(1) グレーターミナミ全体

- 新産業を揺籃する研究開発機能の集積（中長期：15～30年後）
 - ①高度先進農水産業の育成
 - ②国際医療拠点の形成
 - ③人材育成の推進
- 土地利用転換（中長期）
 - ④良質な住環境整備
 - ⑤厚みのある観光エリアの形成
- 観光都市機能の充実（中長期）
 - ⑥24時間都市の整備
- アジアビジネス、アジアベンチャーが集積するエリアの形成（短期：5年後）
 - ⑦新産業育成拠点の構築
- インバウンドビジネスの集積促進（短期）
 - ⑧Ma a Sプラットフォームの構築
 - ⑨着地型観光の振興
- 一体的な都市経済圏の形成（短期）
 - ⑩地域整備計画の策定

(2) グレーターミナミ・シティ

- 観光産業地域としてのまちづくり（短期）
 - ⑪グレーターミナミTIDの推進
 - ⑫観光送客のゲートウェイ
- インバウンドビジネスの集積促進（短期）
 - ⑬インバウンドビジネスのアクセラレータの設置
- アグリバイオの研究開発機能の集積（短期）
 - ⑭アグリバイオのイノベーション創出拠点の整備

<添付資料>○提言「グレーターミナミの活性化に向けて」

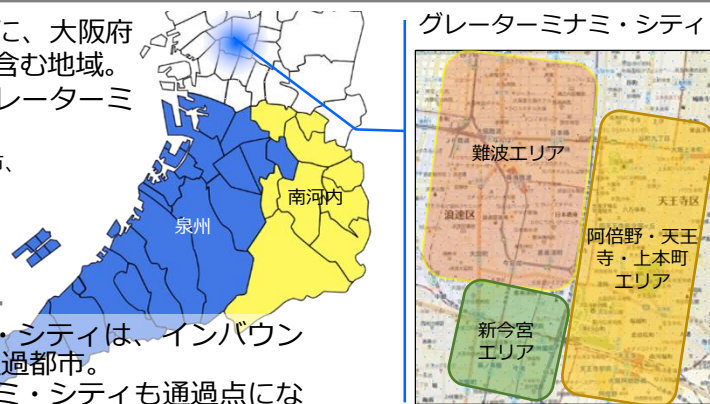
○大阪商工会議所都市活性化委員会「グレーターミナミの活性化研究会」概要

以上

グレーターミナミとは

- 難波、新今宮、阿倍野・天王寺・上本町エリアを基点に、大阪府南部に広がる、泉州9市4町と南河内6市2町1村を含む地域。
- 難波、新今宮、阿倍野・天王寺・上本町エリアを「グレーターミナミ・シティ」と呼ぶ。

泉州：堺市、高石市、泉大津市、忠岡町、和泉市、岸和田市、貝塚市、熊取町、田尻町、泉佐野市、泉南市、阪南市、岬町
 南河内：富田林市、河内長野市、松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村



取り組みの方向性

- 1 アジアに太く強くつながる関西国際空港をゲートに、大阪都心部と大阪府南部地域が、行政区域を越えて、一体的な発展をめざす都市経済圏を形成する。
- 2 難波、新今宮、阿倍野・天王寺・上本町エリア（グレーターミナミ・シティ）を、日本のインバウンドのハブとして、アジアからの集客、日本各地への送客、インバウンドビジネスの集積をはかる。
- 3 その活力を、グレーターミナミ全体に波及させ、インバウンドビジネスやアジアビジネス、新しい農水産業など新産業のマザーエリアとして発展させる。
- 4 これら取り組みを進め、定住人口と交流人口を増やす好循環を創造する。

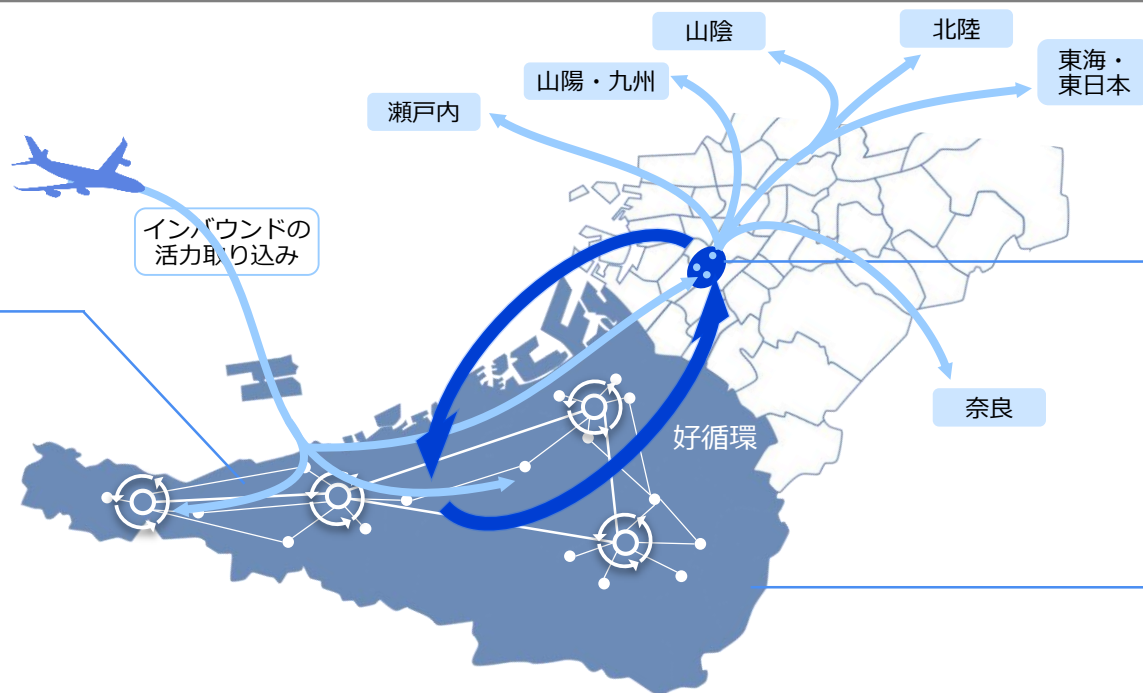
現状・課題

- インバウンドで明暗がわかる。グレーターミナミ・シティは、インバウンドの受け皿だが、それ以外の地域は、関空利用者の通過都市。
- 2031年になにわ筋線が開業すれば、グレーターミナミ・シティも通過点になりかねない。
- 国等による中長期のまちづくり整備計画がなく、一体的に発展する地域としてとらえられていない。

具体方策

グレーターミナミ全体

- 新産業を揺籃する研究開発機能の集積 **中長期**
 - ① 高度先進農水産業の育成
 - ② 国際医療拠点の形成
 - ③ 人材育成の推進
- 土地利用転換 **中長期**
 - ④ 良質な住環境整備
 - ⑤ 厚みのある観光エリアの形成
- 観光都市機能の充実 **中長期**
 - ⑥ 24時間都市の整備
- アジアビジネス、アジアベンチャーが集積するエリアの形成 **短期**
 - ⑦ 新産業育成拠点の構築



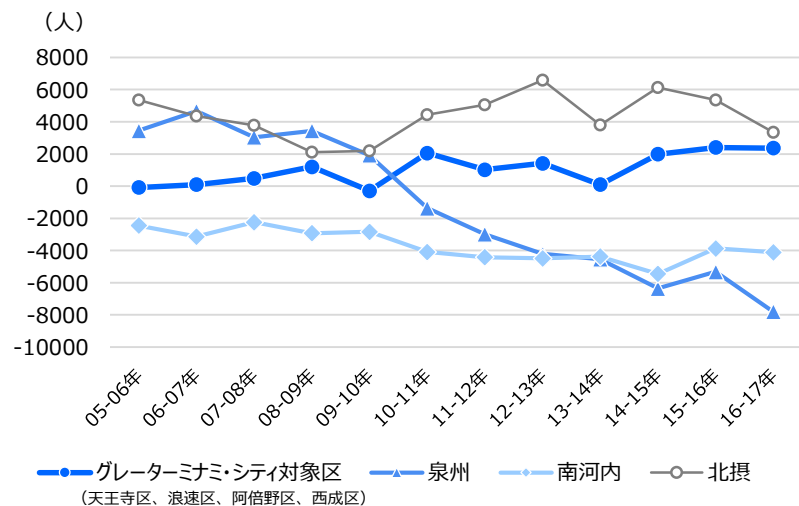
グレーターミナミ・シティ

- 観光産業地域としてのまちづくり **短期**
 - ⑪ グレーターミナミTIDの推進
 - ⑫ 観光送客のゲートウェイ
- インバウンドビジネスの集積促進 **短期**
 - ⑬ インバウンドビジネスのアクセラレータの設置
- アグリバイオの研究開発機能の集積 **短期**
 - ⑭ アグリバイオのイノベーション創出拠点の整備

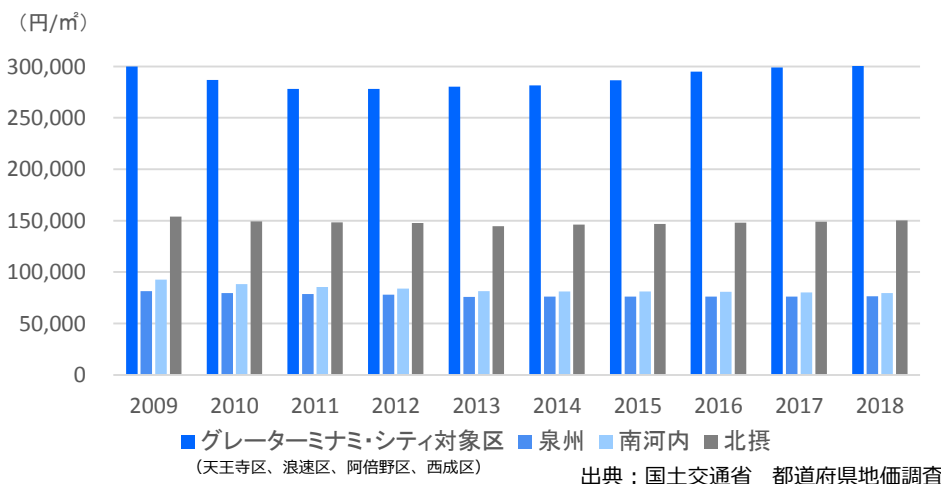
グレーターミナミ全体

- インバウンドビジネスの集積促進 **短期**
 - ⑧ MaaSプラットフォームの構築
 - ⑨ 着地型観光の振興
- 一体的な都市経済圏の形成 **短期**
 - ⑩ 地域整備計画の策定

地域別人口増減

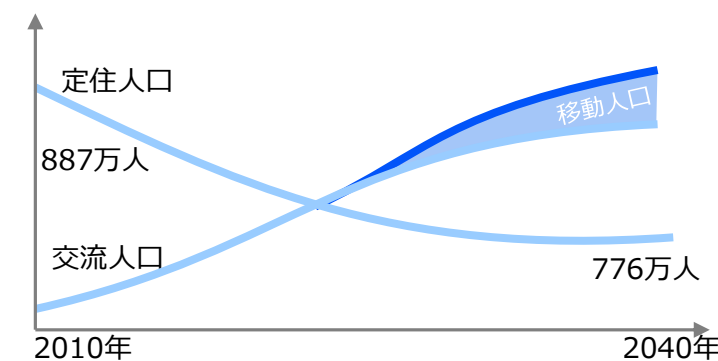


地域別地価推移



今後の人口推移イメージ

大阪府の人口（定住人口）は、2010年の887万人をピークに減少期に突入り、2040年には776万人と急激な減少が見込まれる。そこで、インバウンドなどの交流人口や、国内外からの移動人口を増やし、グレーターミナミの活性化をはかる。



<グレーターミナミ全体>

中長期（15～30年後：なにわ筋線・リニア中央新幹線開業を経て2050年頃まで）

新産業を揺籃する研究開発機能の集積

関空によって強く結ばれ、今後も成長が見込まれる、アジアはじめ世界に展開する新産業を育むマザーエリアをめざし、大学や研究機関等と連携し、研究開発機能の集積を図る。

①高度先進農水産業の育成

ゲノム編集、高級食材培養、植物工場、日照や施肥等を完全にA Iでコントロールする精密農業、育成環境をA Iで完全コントロールする陸上養殖等の研究開発機能を集積し、新しい農水産業を育成し、製品を関空から空輸、あるいは新農水産業自体の海外展開を図る。

②国際医療拠点の形成

大阪府及び泉佐野市が、「りんくうタウン・泉佐野市域の地域活性化総合特区」において進めている国際医療交流の拠点づくりと連動して、周辺の大学や医療施設などのネットワーク化を強め、訪日外国人を含め高度医療などによる医療サービスの充実をはかる。

③人材育成の推進

ツーリズムビジネスやアジアビジネス、高度先進農水産業で活躍、また地域ビジネスを継業する人材を外国人を含めて育成するとともに、起業にチャレンジする人材の輩出を図る。観光サービス、デザイン、ホテル、食等の4つの専門学校が集まり、観光関連産業の人材を育成する「専門職大学」構想もある。インターンや就職、起業、継業等を通じて、地域の活性化につなげていく。

土地利用転換

工業地帯や物流拠点が立地する臨海部や、泉南の丘陵地にある住宅等の土地利用転換を積極的に推進し、新用途に即した法整備を要望していく。

④良質な住環境整備

アジアビジネスや高度先進農水産業などの経営、研究、投資に携わる国内外の富裕層向けの住宅、インターナショナルスクール、外国人向け病院、レストラン、コンサートホール、商業施設などが整った良好な住環境整備を、大阪湾を望む泉南の丘陵地に整備する。また、完全自動運転、シェアカー、住民の健康状態の24時間モニタリングなどのサービスを提供する仕組みの検討を進める。

⑤厚みのある観光エリアの形成

高野山、熊野古道、古墳群等のほか、金剛山、温泉、大阪湾でのフィッシング、瀬戸内クルーズなど、豊かな歴史文化及び自然環境に囲まれた紀伊山地や大阪湾から続く瀬戸内海の立地環境を活かし、高級海洋リゾート地やM I C E拠点、またボリューム層が楽しめる施設など、多様で厚みのある観光エリアの整備を検討する。

観光都市機能の充実

⑥24時間都市の整備

24時間空港である関西国際空港を活かすため、グレーターミナミを、24時間稼働する都市として整備する。交通インフラや飲食店など、インバウンド関連サービスの24時間化を進め、観光都市としての魅力を高める。

短期（5年後：大阪・関西万博が開催される2025年頃まで）

アジアビジネス、アジアベンチャーが集積するエリアの形成

関空と大阪市の中間に位置する立地特性を生かしたアジアビジネス、アジアベンチャーの集積を進め、新産業の創出を図る。

⑦新産業育成拠点の構築

関空から至便性を活かし、アジアのベンチャービジネスを受け入れるインキュベーション拠点や、産学連携による新産業育成をめざす拠点等を設置するよう、堺市他に働きかける。

インバウンドビジネスの集積促進

⑧MaaSプラットフォームの構築

- 次世代の新交通サービスとして期待されるMaaS(Mobility as a Service)については、大商で別途設置する「MaaS研究会」の成果を、必要に応じて、当該地域にフィードバックする。
- 当該地域は、研究会の要請に応じて実証実験の場の提供を検討する。

⑨着地型観光の振興

- 地元ならではのコト消費型観光コンテンツを開発・販売する、着地型観光に取り組む。
- グレーターミナミ・シティでは、「大阪市あきないグランプリ」への応募を目標に、各店舗で个性的かつ魅力ある観光プログラムを開発する。
- 2019年の一定時期、例えば9～10月のラグビーワールドカップは観戦自体がコト体験、それに合わせ、商店街での体験プログラムや、天王寺動物園でのナイトゾー等を実施する。
- また世界遺産指定を待つ百舌鳥・古市古墳群や、サイクリング、体験漁業等々、様々なコト体験プログラムが楽しめるイベントを開催する。泉州地域については、泉州7商工会議所で構成する「泉州地域広域観光連携協議会」と連携、南河内地域については、行政や観光関連団体等、連携先を探す。
- グレーターミナミのホテルや鉄道、関空などでのPRを働きかける。
- 将来の常時実施に向け、観光客の反応や課題、推進体制等を探る。

一体的な都市経済圏の形成

⑩地域整備計画の策定

- 大阪都心部と大阪府南部地域が一体的な発展をめざす都市経済圏を形成するため、同地域の中長期的な整備計画を策定し、それに基づく施策が展開されるよう、国や大阪府などに働きかける。

グレーターミナミの現況

- 大阪を訪れる観光インバウンドは、2017年は1110万人。2018年4～6月期の観光客の訪問率は41.8%で全国1位、1人あたりの消費額は5万7347円で全国4位(観光庁調査)。
- 関空に発着するLCCは週510便以上、関空就航便に占める割合約4割。2017年の関空利用者2869万人のうち中国、韓国、台湾、香港の4カ国・地域で74%を占める。また、関空利用者の8割が関空in関空out。

泉州・南河内地域の現状と課題

- 世界遺産指定を待つ百舌鳥・古市古墳群等観光資源はあるものの、関空利用の外国人観光客の周遊、滞在につながらず、膨大な関空利用者の通過都市になっている。すなわち、インバウンドによる交流人口増加の恩恵に浴していない。
- 1次産業と、金属、機械、繊維等工業の集積地域だが、定住人口の増加には結びついていない。
- 課題:大阪都心部と当地域が一体的な発展をめざす地域振興策が必要。また万博後の大阪の成長を考える際、新しい産業とそれを支える人々の活動空間として、当地域の長期展望も描き、可能性を示唆することも重要。

グレーターミナミ・シティの現状と課題

- インバウンドの活況を受け、新今宮界限では、労働者向け簡易宿泊所がホテル等の外国人旅行者向け宿泊施設に建て替わる。
- 通天閣や天王寺公園、あべのハルカス等観光地としての魅力を有し、今後も観光インバウンドの受け入れ地、滞在場所としての発展が期待される。
- 課題:インバウンドによる現在の活況を飛躍の機会として捉え、観光の産業化、さらには他の産業の振興、他地域への波及、定住人口の増加、まちづくり等を進める計画が必要。

<グレーターミナミ・シティ>

短期

観光産業地域としてのまちづくり

⑪ グレーターミナミTIDの推進

- 行政区域を超えて、難波、新今宮、阿倍野・天王寺・上本町エリア（グレーターミナミ・シティ）の関連企業（宿泊事業者、商業者、交通事業者、観光事業者、等）が、一定の負担金を主要な財源に、観光マーケティングやプロモーション活動、まちの安全安心環境整備等を通じて、観光地域まちづくりに取り組む。
- 大阪市が大阪市版TID制度を検討中であることから、学識者や関連企業とともに、難波、新今宮、阿倍野・天王寺・上本町エリアをモデルケースに具体的な仕組みを検討し、その導入を大阪市に働きかける。
- グレーターミナミTIDはスモールスタート、3段階で拡大していく。
 - エリアを限定し、環境維持管理等からスタート（関連コアメンバーでスタート）
 - ループバス等による回遊性向上（メンバーを徐々に拡大）
 - グレーターミナミエリアで地域の魅力価値向上、まちの安全安心システム実証実験 等
- 観光産業地域としてのまちづくり計画の策定、都市再生緊急整備地域の指定、等を、大阪府に要望する。
- 将来的には、グレーターミナミエリア全体でのTIDをめざす。

⑫ 観光送客のゲートウェイ

関西国際空港に降り立った旅行者が、グレーターミナミ・シティを拠点に、大阪・関西・西日本はじめ、日本各地を周遊できるよう、観光客の送り出し機能を高める。

インバウンドビジネスの集積促進

⑬ インバウンドビジネスのアクセラレータの設置

- グレーターミナミにおける、観光ベンチャーの創出・成長をめざすアクセラレータ事業を、大学や観光関連企業（ホテル、旅行、通信、鉄道等）等で行う。観光ベンチャーと観光関連企業との協業や、新サービスの試験実施、観光ベンチャーへの投資等を通じて、インバウンドビジネスの集積をはかる。
- 中心となる大学や企業がでてくれば、アクセラレータの設立に向けての具体案を検討する。

アグリバイオの研究開発機能の集積

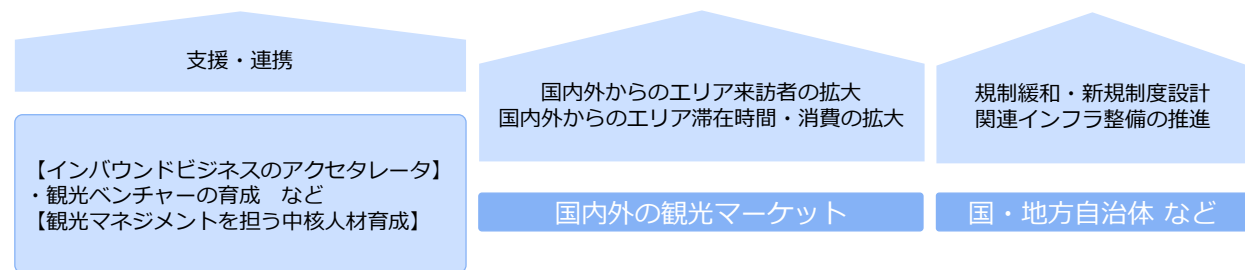
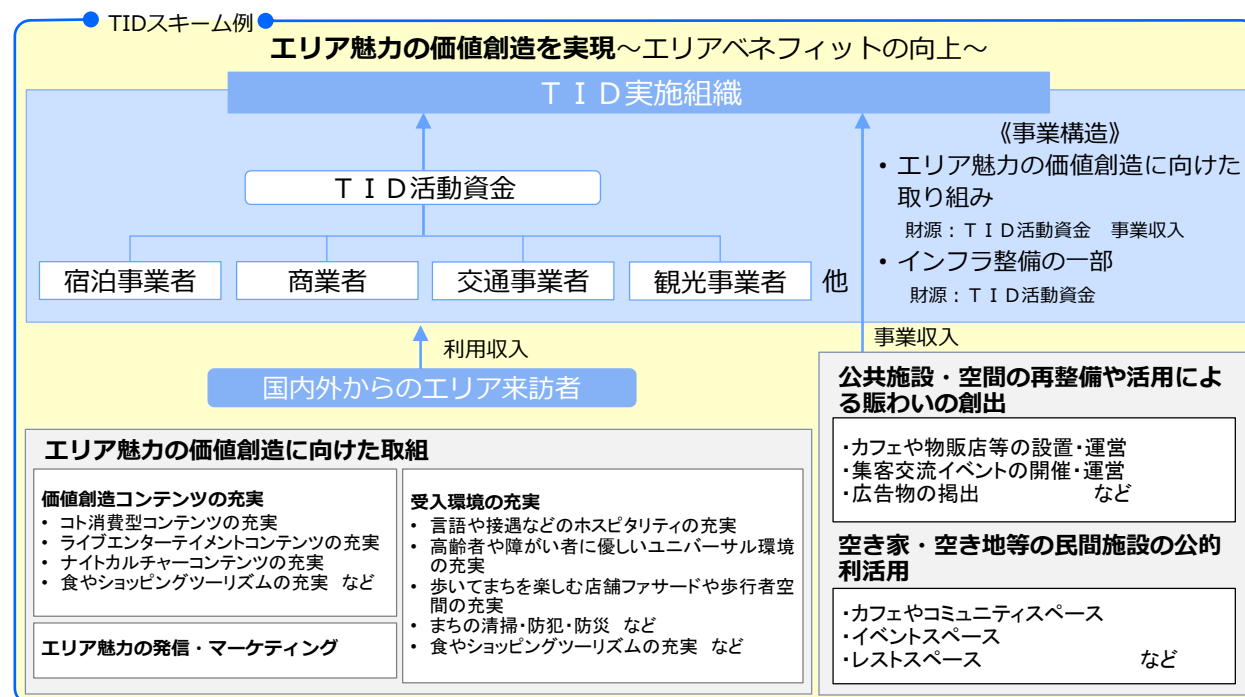
⑭ アグリバイオのイノベーション創出拠点の整備

大阪府立大学や大阪市立大学等の研究成果を活かし、アグリバイオの研究開発やオープンイノベーションに、大学や研究機関、国内外の企業が連携して取り組む拠点を整備する。

TIDとは

Tourism Improvement District（観光産業改善地区）の略

地域内のTID参加企業が自らの収入に対して一定料率の賦課金を課し、かかる資金を原資とした地域の観光マーケティングやプロモーション活動などを通じて観光地域まちづくりに取り組む仕組みで、米国のサンフランシスコ等において先進的に導入されている。大阪市では、官民連携による戦略的な観光地域まちづくりを推進するため、「大阪市版TID」モデル構築に向けた取り組みを進めている。財源は、地方自治法に基づく分担金や法定外目的税等、複数のパターンが検討されている。



ロードマップ	短期							中長期 2026～2050
	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	
①高度先進農水産業の育成	百舌鳥古市古墳群世界遺産登録		ワールドマスターズ2021 関西	星野リゾートOP				りんくうタウンまち開き30年(2026)
②国際医療拠点の形成	ラグビーワールドカップG20	東京オリンピック・パラリンピック		千利休生誕500年				JR阪和線開業100年(2029)、なにわ筋線開業(2031)、南海電鉄創業150年(2035)、和歌山城築城450年(2035)、通天閣開業100年(2043)、岸和田城築城450年(2045)
③人材育成の推進	グローバルハブ恵美OP		堺製鉄所60周年					
④良質な住環境整備								
⑤厚みのある観光エリアの形成								
⑥24時間都市の整備								
⑦新産業育成拠点の構築								
⑧MaaSプラットフォームの構築								
⑨着地型観光の振興								
⑩地域整備計画の策定								
⑪グレーターミナミTIDの推進								
⑫観光送客のゲートウェイ								
⑬インバウンドビジネスのアクセラレータの設置								
⑭アグリバイオのイノベーション創出拠点の整備								

グレーターミナミの将来イメージ



臨海部の土地利用転換(海洋リゾート)



高度先進農水産業の育成(植物工場)



アジアビジネス、アジアベンチャーの
インキュベーション拠点



高度先進農水産業の育成(先進水産業)

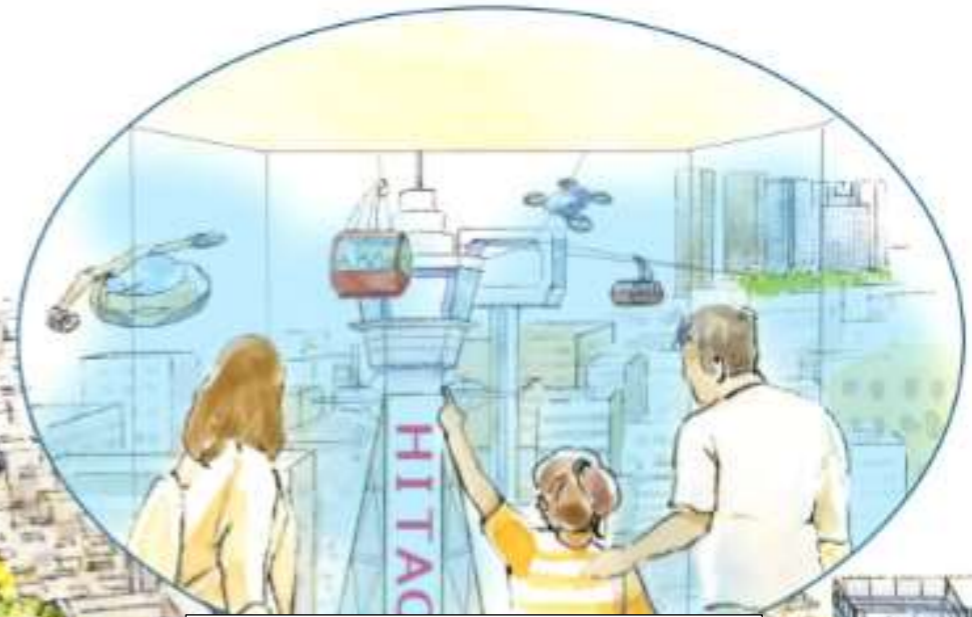


丘陵部の土地利用転換(研究施設と住宅地)

グレーターミナミ・シティの将来イメージ



インバウンドビジネスのアクセラレータ



阿倍野・天王寺エリアと難波エリアをつなぐ
都市型ロープウェイ



歩きやすい道路空間の創出



阿倍野・天王寺エリアと新世界エリアをつなぐ空中回廊



たんと繁盛

参考資料

※役職は研究会当時

【検討体制】

大阪商工会議所 都市活性化委員会

グレーターミナミの活性化研究会 委員名簿

(敬称略・社名五十音順)

【座長】

大阪市立大学大学院 工学研究科 教授 嘉名 光市

【顧問】

大阪府立大学 大学研究推進機構特別教授／観光産業戦略研究所長 橋爪 紳也

【副座長】

阪南大学 国際観光学部教授 松村 嘉久

和歌山大学 システム工学部・准教授 佐久間康富

学校法人エール学園 理事長 長谷川恵一

【委員】

大阪ガス株式会社 秘書部 経営調査室長 谷村 篤史

公益財団法人大阪観光局 魅力創造部長 塩見 正成

大阪市高速電気軌道株式会社 都市開発事業部長兼えきまち事業部長 岡橋 和成

関西エアポート株式会社 企画・管理部渉外チーム次長 北林 弘幹

近鉄不動産株式会社 取締役 中之坊健介

株式会社銭高組 営業課課長 赤松 伸一

泉州地域広域観光連携協議会 事務局：岸和田商工会議所 専務理事 原 宗久

株式会社高島屋 総務本部総務部関西エリアマネージャー 東元 利之

南海電気鉄道株式会社 代表取締役 専務取締役 高木 俊之

西日本旅客鉄道株式会社 創造本部えき・まち創造グループ部長 谷 貴文

株式会社星野リゾート 企画開発部プロジェクトマネージャー 笹本 宇

ミナミまち育てネットワーク 街づくり委員長 境 高彦

【事務局】

株式会社インプリージョン 観光まちづくりプロデューサー/事業開発部長 母倉 修

大阪商工会議所 常務理事・事務局長 児玉 達樹

地域振興部長 小林 幸治

総務広報部広報企画担当課長 中村 裕子

(計21名)



【検討状況】

<第1回研究会：10月25日>

1. 研究会の概要について
2. グレーターミナミの現状について
3. 意見交換

<第2回研究会：11月30日>

○テーマ： 新今宮周辺を中心とした、グレーターミナミの活性化

1. 話題提供
 - (1) 株星野リゾート（新ホテル建設計画等）
 - (2) 南海電気鉄道株（グローバルハブ恵美、なんばE K I K A N等）
 - (3) 大阪府簡易宿所生活衛生同業組合
（インバウンド観光客向けの取り組み等）
 - (4) 近鉄不動産株（グレーターミナミを結ぶイベント等）

2. 意見交換

<神戸視察会：12月17日>

1. 谷上プロジェクト
2. 神戸市の産業政策都市政策ヒアリング

<第3回研究会：12月26日>

○テーマ： 産業振興、インキュベーション機能
（人材育成、インキュベーション、等）

1. 話題提供
 - (1) 学校法人エール学園（専門職大学の設置による人材育成）
 - (2) 泉州地域広域観光連絡協議会（泉州地域の観光産業振興の取り組み）
 - (3) 神戸・谷上プロジェクト視察報告

2. 意見交換

<第4回研究会：1月17日>

1. グレーターミナミの活性化に向けた戦略スキーム素案
2. 意見交換

<第5回研究会：2月5日>

1. グレーターミナミの活性化に向けて（案）
2. 意見交換

以 上